CFNJ アルプスコース（牧師・リーダー）実践神学講義

ネヘミヤ記から見る『問題解決の為、理解すべき５つのポイント』

「問題解決の為の鍵」

●主を喜ぶことはあなた方の力です。（８章 10 節）

学院長　鍛冶川利文

■人生に於いて、又、私達を取り巻くすべての状況の中で必ず起こることは「問題」です。出来れば問題は起きて欲しくないものですが、しかし誰であっても問題を避けて生きていくことはできません。もしどうしても避けられないものなら、出来る限りその問題をプラスに考え、人間や組織の成長のチャンスと捉えることができれば問題は問題ではなくなります。イエス様は「患難はある、しかし、勇敢であれ」（ヨハネ 16:33）と仰いました。聖書のネヘミヤ記から、問題に直面した時にリーダーがどの様な態度で乗り切るかを見ていきたいと思います。ネヘミヤの問題に対する対処の仕方は、私達に模範的な問題解決の為の鍵を教えています。

（前提）

- ●問題はどこにでもある。
- ●問題なくして人や組織は成長できない。
- ●問題は人を打ち砕くか、人を強めるのかのどちらかである。
- ●問題はそれ自体が問題ではなく、その問題に人がどのように向き合うかが問題である。

What？

・正しい状況の把握
・事実を正確に確認すること

1. 何が起こっているのか、問題は何か？

■ネヘミヤ記の１章の２節、３節を見ると、ネヘミヤは親類ハナニからエルサレムの惨状と捕囚からのがれ残った民の苦しみについての報告を聞きました。

「私の親類のひとりハナニが、ユダから来た数人の者といっしょにやって来た。そこで私は、 捕囚から残ってのがれたユダヤ人とエルサレムのことについて、彼らに尋ねた。すると、彼らは私に答えた。「あの州の捕囚からのがれて生き残った残りの者たちは、非常な困難の中にあり、またそしりを受けています。そのうえ、エルサレムの城壁はくずされ、その門は火で焼き払われたままです。」（1章2節～3節）

先ずリーダーは問題の状況を正しく理解する必要があります。何が、何時、何処で、どの程度起こっているのか？正確に把握する事が大切です。もしこの事実確認を見誤るならば、問題解決が全く違う方向に進み、大変な誤解を生む事になります。

問題が発生した時、リーダーに求められる姿勢は、冷静な毅然とした態度です。正確に状況を把握し、問題をどのように捉えるか、又、問題が間違って人から人に伝わらないように、人々のプライバシーを守ることが求められます。では、どうしたらそのような冷静で毅然とした態度で問題に対処することが出来るのでしょうか？

問題に直面した時の聖書的な「3つの心構え」

1.どんな問題が起こっても、全ての上に「神の完全な御支配」がある事を認める。

●「神である主、常にいまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。『わたしはアルファであり、オメガである』」 黙示録 1 章 8 節

●「神は国々を統べ治めておられる。神はその聖なる王座に着いておられる。」 詩篇 47 篇 8 節

2.どんな状況になっていても、万事を益としてくださる「神からの信仰」をいただく。

●「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」 ローマ 8 章 28 節

3.これからの状況の見通しが見えなくても、最善へと導いてくださる聖霊様の導きを信じる。

●「しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。」 ヨハネ 16 章 13 節

Why？

・問題の原因がどこにあるのか
・問題の所在や特徴は何か

2. 何故このような事が起こってしまったのか?

■次に重要な事は、何故このような問題がおこってしまったのか？という原因・責任の所在などを正しく理解することです。この際、原因の究明や追求が個人攻撃にならず、正しい方向へ持って行くことが求められます。ネヘミヤ 1 章 4 節から 11 節にはネヘミヤの神への祈りが書かれています。ここでネヘミヤは、エルサレムの惨状という問題の原因が「神への罪」であると述べています。自分も含めイスラエル全体、又、自分とその父、代々からの「神への不信の罪」の結果であると語っています。ここで、ネヘミヤの問題の原因に対する態度の特徴は、起こってしまった問題を人や回りにぶつけるのではなく、まず神に向けて、自分の事として語られていることです。

問題の原因を知るための「4つのステップ」

1.神への祈りと告白。

祈りが問題解決の始まりです。「主よ！何故でしょうか？助けてください！」まず問題を主のもとに持っていくことが指導者の正しい態度として求められます。奥さんにぶつけたり、部下の人にぶつけたりするのではなく、主の元にいくことです。

2.問題の原因を自分から問いただす。

問題の原因の究明を、まず自分から始めます。自分は何を行っただろうか？自分の責任は何か？ネヘミヤは私と私の家族の罪と言いました。ですからまず自分自身の罪の悔い改めをします。自分をまず裁くなら問題の核心も見誤りません。問題の解決を最も妨げるものは、罪を持ち続けている事です。ネヘミヤは、このような事が起こった理由は、まず、私を神の前にへりくだらせる為であることを理解していました。江戸時代、米沢 15 万石の藩主で、危機的な藩の財政を建て直し、名君と讃えられた上杉鷹山という人がいました。この人は、あのジョン・F・ケネディ大統領が日本人の中で最も尊敬していた人だそうです。この上杉鷹山は、人を罰するにあたりこのような姿勢をもっていました。「死刑は勿論、少しでも誰かが処刑される日には、ご飯を控えめにし、絶対に好物を食べようとしなかった。罪人が出たのは自分の不徳の故であり、刑とはいえ人を罰するのは重大なことである。」ネヘミヤの問題に対する態度もイスラエル民族の罪は自分の罪でもあるという確信でした。それがその後の解決に向かう原動力となっていきました。

3.問題の原因を霊的に見る。

問題の原因を探る中で、すぐに人を責めるのではなく、背後にある「罪の力と悪魔の働き」に対抗していく態度をもつ必要があります。このような事が起こった理由は、更に大きな問題を防ぐため、又、神への信仰を強める為であるという積極的な姿勢で向かう事です。

4.愛の油注ぎを受けること。

神からの愛だけが問題を正しく把握し、原因を正しく理解できる目を与えてくれます。Ⅱコリント 1 章 3 節～ 7 節でパウロは問題が人への慰めを増す為であると語っています。問題には必ず理性的な理由があり、目的があります。

How？

・決定を分析する
・解決に向かう

3. どんな解決策があるのか?

■正確な状況判断と原因を確かめたなら、いよいよ解決へと向かっていきます。この時に大切なのは何の為に何を解決すべきかという明確な理解です。解決までの優先順位や解決を図るためのシステム作り、又、明確な目標や結果を定めます。どうしたいのか？人と人との和解が必要か？謝罪と弁償が必要か？とにかく最終的な解決の状態を設定する必要があります。ネヘミヤの場合、エルサレムの神殿の再建が目標でした。その為にネヘミヤがとった行動は先ず自分の権威者であるアルタシャスタ王に助けを求めた事でした。この行動を起こすまでネヘミヤは実に 4 ヶ月を要しました。（「キスレウの月（11 月）（1:1）～「ニサンの月（3 月）（2:1）」）これは、この問題がいかに重大な事件であって、とても自分だけで解決できることではなく、王の助け、つまり政治的な力が必要であることを理解していた為でした。資金や人手、そして、許可が必要であったからです。そしてそのネヘミヤの申し出を王は快く許可しました。

ネヘミヤの具体的な行動へ移す為の「4つのステップ」

1.自分の権威者からの意見やアドバイスなどの指導を願うこと。（2:1～8）（箴言 11:14、24:6）

2.自分自身の目で正しく状況を確認する事。（2:11 ～ 16）

3.多くの同胞・協力者（部下や役員・信徒）の賛同を得る事。（2:17）（箴言 15:22）

4. 実際的な行動を起こす事。
「さあ、再建に取りかかろう！」（2:18）

If？

・将来を分析する
・今後起こりえる問題は何か？

4. 将来、これから何が考えられるか?

■実際的な行動をはじめると同時に、今後予想される将来に備えてのプランをたてる必要があります。出来れば解決までの計画、短期・中期・長期の計画をたてておけば今後起こりえることに備えることが出来ます。（戦略的なプラン）

次ページにつづく

ネヘミヤの場合は行動を起こした直後から敵の激しい妨害がありました。（2章19節～20節）（4章1節～3節）これらはある程度は予想されたことでしたが、実際にはかなり露骨で激しいものでした。（敵は怒り、嘲り、邪魔し、陰謀を企てた。）（4章7節～8節）しかし、この問題とは別に、外からではない内からの敵にも悩まされます。それは生活問題です。大工事の間に人々の生活は困窮する中、同胞から利子や抵当を取り、不当な利益を上げている者がいました。そのことでネヘミヤは怒り、不当な貸し借りをやめさせました。（5章1節～19節）このように敵は必ず、神の回復の働きを試み邪魔しようとします。問題はそれに対して、対抗して何をなすべきか、その心の準備、備えです。ネヘミヤは、敵の妨害に対して、民を半分に分け、半分は働き半分が敵の攻撃に備えました。そして人々は片手に武器を持ちながら熱心に仕事をし続けました。（4章16節～18節）

将来に備える為の「3つのポイント」

1. 恐れてはならない事（4章14節）

敵は何とか邪魔をし、恐れを吹き込もうとします。しかし、最大の敵は、自分自身の中にある失敗への恐れです。恐れは前に進もうとする力を弱めてしまいます。自分の中に恐れが支配することは、内に罪が存在していることのしるしです。問題に立ち向かっていこうとする時、先ずこの自分の中の罪を神の前に悔い改めなければなりません。（ヘブル10：17～23）

●私は彼らが恐れているのを見て立ち上がり、おもだった人々や、代表者たち、およびその他の人々に言った。「彼らを恐れてはならない。大いなる恐るべき主を覚え、自分たちの兄弟、息子、娘、妻、また家のために戦いなさい。」（4章14節）

2. 堅い信仰を持ち続ける事。（4章20節）

問題に立ち向かっていく場合、この戦いは自分と敵ではなく、神と共に、神ご自身が敵と戦ってくださるという理解と信仰をいただく。

●どこででも、あなたがたが角笛の鳴るのを聞いたら、私たちのところに集まって来なさい。私たちの神が私たちのために戦ってくださるのだ。」4章20節

3. 失望せずに前進し続ける事。（6章8節～9節）

エルサレムの完成間近に敵は最後の抵抗を試みます。（6章2節）それはネヘミヤ自身に手を下そうとするものでした。しかしネヘミヤはその策略を見抜き、内部からの陰謀からも守られます。このように敵は、ゴール間近であるからこそ激しく、かつ巧妙に、何とかして計画を欺こうとします。しかし、なおも主に信頼し、気力を失わず前進し続けるなら、敵は逃げ去ります。

●そこで、私は彼のところに人をやって言わせた。「あなたが言っているようなことはされていない。あなたはそのことを自分でかってに考え出したのだ」と。事実、これらのことはみな、「あの者たちが気力を失って工事をやめ、中止するだろう」と考えて、私たちをおどすためであった。ああ、今、私を力づけてください。（6章8節～9節）

Joy！

・問題はチャンスになった
・問題の意味と目的を学ぶ

5. 問題の解決から何を学ぶのか？

■こうして城壁は52日間かかってついに完成しました！敵はこれを見て恐れを抱き、面目を失い、神の助けの確かさを思い知ります。ネヘミヤの巧みな指導により、エルサレムの再建という大工事はここに完成します。しかし、このことは単に敵からの勝利や城壁の再建工事の完成という事以上の、民族としての深い意味をもつものでした。問題が解決したとき、喜び、主に感謝をささげるとともに、この事が何のため起こったのか？又、この問題の意義と将来に向けてどうあるべきなのかを考える必要があります。これをやり遂げた力はどこから来たのか？この出来事の目的は何であったのか？

問題の解決から学ぶ「3つのポイント」

1. 人生に於ける神の目的を知る（7章・8章）

エルサレムの城壁の再建の目的は、主の民が安心して住み、そこで礼拝を守るためでした。7章で神はネヘミヤの心を動かして住民の調査（7章5節）を行い、8章ではエズラの指導のもと律法の書が開かれ特別な礼拝が行われました。（8章1節～8節）ですからこの問題の目的は、実際の城壁を再建することを通して、人々の心の中の城壁を立て直し、その破れ口を繕い、神の民という使命に立ち返らせる為でした。私達の人生に於ける多くの問題も、その目的は本当に大切なものとは何かを気づかせ、それをもう一度取り戻す為です。

2. 人生に於ける神の憐れみ深さを知る（9章31節）

9章全体はエズラの祈りです。その祈りは、何故？我々の先祖の時代に神の祝福を失い、国が滅びるような事態を招いてしまったのか？その先祖達の悲しむべき行為と、その反逆の歴史を延々と語り続けます。しかし、そのことは逆に神がどれほど愛を示され、憐れみ深いお方であるかを証しするものでした。人は問題の渦中にある時は理解できなくても、後でどれほど、その中に神の憐れみの御手があったかに気がつくものです。

3. 人生の喜びと祝福を知る（12章）

ついに城壁の再建は成就し、落成の感謝式を迎えました。その日には民は感謝と賛美に満ちあふれ、多くのいけにえも捧げられました。

●こうして、彼らはその日、数多くのいけにえをささげて喜び歌った。神が彼らを大いに喜ばせてくださったからである。女も子どもも喜び歌ったので、エルサレムの喜びの声ははるか遠くまで聞こえた。（12章43節）

問題は私達を苦しめるためでなく、勇気を持って立ち向かうなら必ずそれを乗り越える事が出来る事、そして、それを通して人生の素晴らしさと、喜びをもたらす為にあるのです。

●主を喜ぶことはあなた方の力です！（8章10節）